

行政改革実施計画管理

点検シート

**総合計画における実施計画の
機能強化による行政課題への
対応**

実施事業名	総合計画における実施計画の機能強化による行政課題への対応		
推進項目名	効率的な行政サービスの提供	担当課	企画課
委員名	御意見等		
川西会長	1. 制度や形としては非常に改善してきていると思う。特に予算との関連付けをするなど、小手先だけではない抜本的な改革が行われており、高く評価したい。 2. 然し、実際の運用面で趣旨が生かされていない。その典型的な例が、図書館の民営から直営への移行に関するマネジメントシートである。大きな検討課題であるこの移行がシートに記載されていない。また、主目的であるはずのPDCAがシートからは全く読み取れない。こうした不十分なマネジメントシートは他にも多く見受ける。 3. 運用を改善するための方策を速やかに検討し実行してほしい。以下に例示する。 ①マネジメントシートへの記入が事務处理的である。担当者任せになって、管理職は関心が薄い。重要な検討は別の場で行われていないか。→マニュアルの改訂等。 ②市の幹部や、担当の総務部は、もっと問題点を指摘し、関与すべきである。 (市には優秀な職員も多いと観察する。だが、他職員の不十分な仕事を見て見ぬふりをしているのではないか。地方自治体にはムラ社会という特性があり、仲間を傷つけないという心情は理解するが、これでは、業務全般の底上げが出来ない。) →切磋琢磨の文化を醸成するための市幹部の大きな関与、人事考課の見直し等。		
吉田副会長	PDCAのマネジメントサイクルを重点事務事業に確立させることは、当委員会のこれまでの事業評価や提言の趣旨と一致するものであり、市役所の行政運営の高度化に寄与するところが大きいと考えます。 中間評価によって、予算編成への反映が短縮化され、また、年度内の事後評価によって、自己評価の一貫性が保持されることは、大きな改善と評価できます。 職員の意識向上は大きな課題であり、一部の執行管理表には従来の形式的な記述もまま見られますが、一つの型ができつつあることは確かです。引き続き、全庁的に取り組んでいただきたいと思います。		
牛島委員	現状は伝統的な意思決定の手続きによって政策形成がなされており、改善の余地が十分にある。例えば、EBPMを実施するための基本的な構造がないため、それぞれの事務事業がどの程度効果があり、どのようにしたら効率化されるのかについて議論するための情報が全く存在していない。現状をどのように改善すればEBPMが実施できるようになるのかを十分に考慮する必要がある。まず考慮すべき点は情報の収集と収集した情報の分析の技術であろう。世界銀行の” Impact Evaluation in Practice” が実務家向けの入門書(学部相当)で参考になるだろう。フリーなので是非ご覧になると良い。1章、2章だけでも。		
松尾委員	第七次守谷市行政改革実施計画で掲げた11項目については、夫々成果目標を設定しているが最終年度の今年、夫々の目標がクリア出来るか疑問に思う状況にある。当事業は実施計画の基礎となる事務事業のマネジメントサイクルを確立すること等を目標としており、自らの事業進捗評価を「概ね順調」としている。しかし成果達成が難しい状		

	況では、その評価に矛盾を感じる。関係各課をリードして計画最終年度で成果目標を是が非でも達成する動きをしている印象は薄い。事業進捗、成果達成状況の判断は各課任せという状況ではないだろうか。単に PDCA の場を設けるだけで、席上で状況判断出来る情報開示や実りある審議が出来るような運営になっているだろうか。報告会に終始していないだろうか。 市民に約束した実施計画が満足行く結果に終わるのか、「市役所」全員が判断できる場が出来ているのか見直しをお願いしたい。					
西尾委員	今回改善された行政評価スケジュールにより実施計画のスピードが増すことに期待する。 だがその評価において、マネジメントシートなどを見ても成果指標などの基準となるポイントにずれを感じ、不十分である。早急に改善を要するべきものである。					
	川西 会長	吉田 副会長	牛島 委員	松尾 委員	西尾 委員	合計
施策の貢献度	15	15	5	9	8	52
事業の必要度	20	15	20	17	20	92

行政改革実施計画管理

点検シート

中長期経営計画の策定（上水道）

実施事業名	中長期経営計画の策定（上水道）		
推進項目名	財政マネジメントの強化	担当課	上下水道課
委員名	御意見等		
川西会長	1. 本プロジェクト自体は、市の健全財政を長期的に維持するためにも肝要な意義のあるプロジェクトと思う。然し、提示された資料及び説明からは、評価できるだけの内容が読み取れない。当事者として一生懸命にやっていることが感じ取れるのみである。 2. 本事業の最終目的は、現状と将来像とをわかり易く示し、市民の理解を得ることと思う。然しこのプレゼンテーションでは難しい。 3. 理解を得るようにするためには、外部の力が必要と思う。担当課に経理の強い部門が協力する、或はアドバイザーを活用する、等が考えられる。 4. なお、本プロジェクトは重要ではあるが、緊急ではないと思う。他の自治体の良い例が完成してから、それを真似ることも良いと思う。台帳の整備は行いつつ、プロジェクトは一時棚上げしても良い。 この種の案件に不慣れな人たちが、貴重な時間を空費し呻吟しておられるようで勿体ないからである。 5. 本件は評価しないとの選択肢もあり得ると思う。		
吉田副会長	現在までの進捗状況からすると、平成30年度内の計画策定が危ぶまれます。 策定の基礎となる固定資産の確認に時間を要しているとのことですが、本来ならば本事業に着手する前に把握されていなければならないことであり、外部有識者に助力を求めるなどして、速やかに確定されるよう強く望みます。 計画策定にあたっては、上下水道事務所内だけにとどまらず、上下水道事業審議会はもとより、外部有識者の知見を得るなどして、実質的で効率的な議論を進めるとともに、市民に向けた分かりやすい説明がなされるよう希望します。		
牛島委員	これまでに不十分だった上下水道の資産管理をより厳密に行うようにするという大きな方針は妥当であろう。しかし、その作業の時間と専門性が必要となる業務に対して十分な見通しがあるようには感じられなかった。短期的な問題を解決するだけでなく、外部の力を借りて、役所内に専門的な知識・ノウハウが蓄積することで、中・長期的に同様の問題を回避できるようにしていただきたい。 人口が急速に減少していく我が国にとって基礎インフラの維持管理は最重要課題の一つである。守谷の上下水道の資産管理問題はベットタウンとなる他の自治体でも直面しているのではないかと。他の自治体の模範となりうる事業と思われる。		
松尾委員	説明資料の執行管理表の記載内容では、中長期経営計画策定に至る背景や策定手順等が理解できない。本来なら席上説明でそれを補うべきだが、記述項目の説明等に留まり昨年同様、実施事業内容が良く判らない状況にある。 今回は個人的だが、勉強会を設けて背景等を理解し説明も時間をかけて聞いたので経営計画の策定趣旨等を理解出来たが、審議会での審議時間の短さ及び委員の固定資産会計知識の乏しさを考えると、今後当事業の理解が深まるのか不安になる。		

	水道事業への理解を深めるためには、素人判りする説明に注力することと固定資産会計知識を持った市民を経営計画策定審議メンバーとする等の工夫が必要と思う。					
西尾委員	一般市民からすると、水道料金の高い安いだけで判断するしかない水道事業が、長期的見通しのもとに分かりやすくなることを期待している。 現状は策定に行き着くまでに予想より時間がかかっているということであり、事務処理にその一端があるということであれば、その方法に問題点があるということを真摯に受け止めるべきであり、改善方法を考え採用するべきである。					
	川西 会長	吉田 副会長	牛島 委員	松尾 委員	西尾 委員	合計
施策の貢献度	5	5	10	17	12	49
事業の必要度	15	20	20	20	20	95